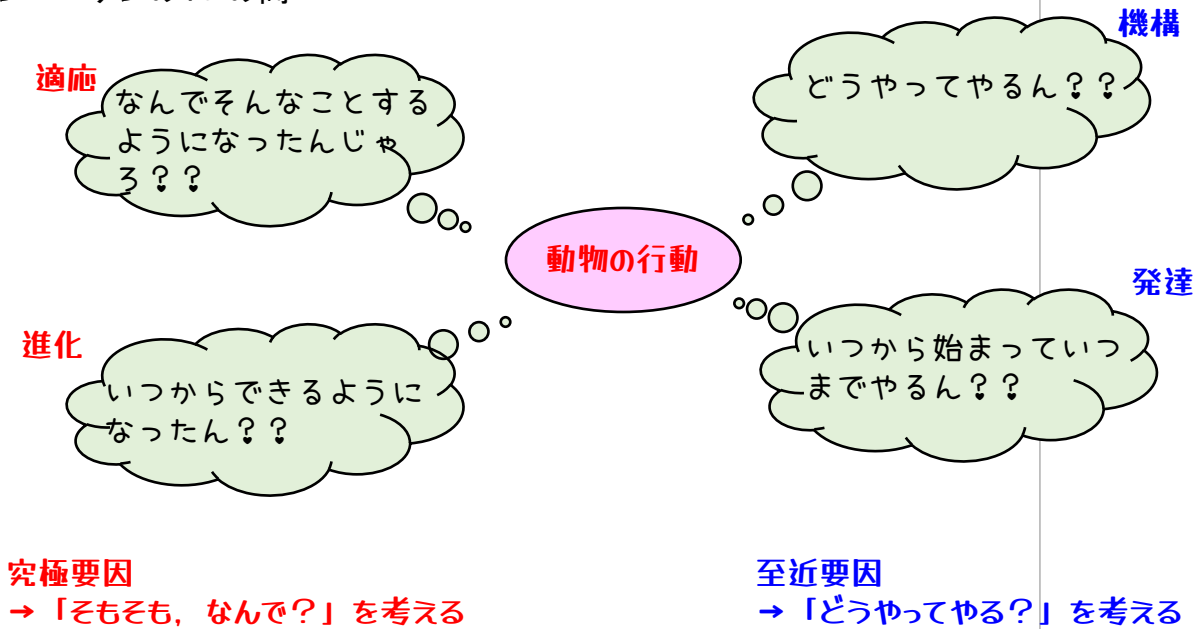


1 行動学基礎

(1) ティンバーゲンの4つの問



至近要因

- []…行動がどのように制御され、発現するか、といった体の構造やメカニズムの視点
- []…行動がどのように発達し、どのように変化していくかといった視点

究極要因

- []…行動の目的や意義について考える
- []…進化の過程の中でいったいどこからこの行動を発現するようになったのか考える

(2) 動物がする行動

- ① []…それぞれの動物種が生まれながらに持っている行動
例) 摂食行動, 飲水行動など
- ② []…各個体が経験した学習により獲得した行動
例) オスワリなどの学習

(3) 脳について

- ① 脳幹…生命維持に必要な中枢を含む(意識, 呼吸, 循環, 体温調節, 睡眠, 覚醒, 摂食, 性行動)
→
- ② 脳内で行動に関わる神経伝達物質
 - ・ []…[]から合成される神経伝達物質, 学習において重要な働き
枯渇するとうつ状態になったりする
 - ・ []…[]の神経伝達物質
 - ・ []…[]の正常化, 衝動や不安が抑制される

2 個体維持行動

	個体行動	社会行動
維持行動		社会空間行動 敵対行動 親和行動 社会探査行動 社会遊戯行動
生食行動		性行動 母性行動
失宜行動		

・ []…自らを維持していくために実施する行動
 ⇒維持行動には, [], [], [], []などの行動が含まれる

① 摂食行動 ※自然界では長い時間を摂食行動に費やしていた
 (食べることはすべての根源)

- 動物種により, 必要な栄養素は異なり, それにより摂食様式は異なる
- 犬:先祖である[]の修正を引き継ぐ。[]で大型動物の狩りをして, 一度に[]の摂食をすることが出来る。食性としては[]性。
- 猫:先祖である[]の修正を引き継ぐ。[]で狩猟を行い, []に接触する。(⇒1日に数回の狩猟を行う)

② 排泄行動 ※成体で1日に[]回

- 犬や猫は自分の居所や寝ぐらから[]場所せ排泄する
 - 尿や糞は自分の情報を他の動物に知らせる[]の役割もある
- ⇒ []の雄犬は散歩中にあちこちで[]を行う

この行動は[]というホルモンにより引き起こされ, 自分の縄張りにおいて付けをする役割がある。[]により尿マーキングは減少する。



3 発達過程 ※発達ステージ(新生子期, 移行期, 社会化期, 若年期), 成熟期, 高齢期

・発達ステージ…子犬の発達段階のこと

① []期…生まれてから[]の期間

- ・自力で動けず, 眼や耳はまだ閉じている

② []期…生後[]

- ・眼や耳が開いて周囲の情報を受け取ることができる
- ・自力での排泄が可能
- ・兄弟と遊び始める(⇒**社会行動**の開始)

③ []期…生後[] ※さらに細かく, 初期, 中期, 後期に分類

- ・仲間の動物たちと適切な社会行動を学習する期間で, その後の生涯にわたる行動に影響を及ぼす

⇒「動物愛護法」における**展示・販売は生後[]日を経過するまでではない**というルールは, この時期を重要視している

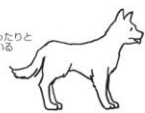
- ・この時期に感覚や運動の機能が発達し, []行動のバリエーションが増える

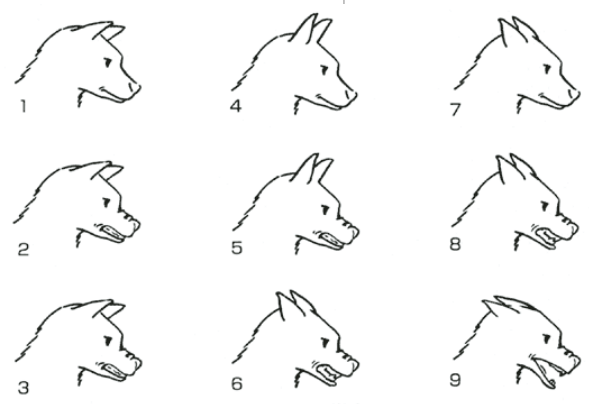
④ []期…生後[] ※離乳してから性成熟に至るまでの期間

- ・周囲に対する[]が増大する
- ・正常な社会行動を学習する時期
⇒ []*の理解, 咬む力加減, 群れの中での順序を学習する
- ・成熟期～高齢期
- ・性成熟してから死に至るまでの期間
- ・加齢に伴い, **認知機能の低下**や慢性疾患などの疾患が増え, 行動の変化を伴うことがある

3 動物同士のコミュニケーション

- ①[]: 鳴き声(吠え声, 満足気に鼻を鳴らす, 唸る, 悲しそうに鼻を鳴らす)
- ②[]: マーキング
- ③[]: ボディーランゲージ

<p>①基本姿勢</p>  <p>尾はゆつたりと振れている</p> <p>耳は立っているが、前方に傾いてはいない</p> <p>顔を上げている</p> <p>口角には力が入らず、ゆつたりとしている</p> <p>体重は体全体に平均的にかけられている</p>	<p>②警戒姿勢</p>  <p>尾はびんと伸びている</p> <p>耳は前方に傾いている</p> <p>口を閉じている</p> <p>つま先立ち、真つ直ぐたっている</p> <p>体重は若干前方にかけられている</p>
<p>③積極的な服従姿勢</p>  <p>尾は下がっている</p> <p>耳は後方に寝かせている</p> <p>顔にはしわがなく、なだらかである</p> <p>瞳孔の犬の口元をなめる</p> <p>口角を後方に引いている</p> <p>体を低くしている</p> <p>地面にはいつくばるような動き</p>	<p>④受動的な服従姿勢</p>  <p>尾は腰の下に巻き込んでいる</p> <p>目をそらしている</p> <p>仰向けに寝ている</p>
<p>⑤防衛的な威嚇姿勢</p>  <p>逆毛たっている</p> <p>尾はお腹の下に巻き込んでいる</p> <p>耳を後方に寝かせている</p> <p>瞳孔が開いている</p> <p>鼻先にしわを寄せている</p> <p>口角を後方に引いている</p> <p>体を低くしている</p> <p>体重は、後ろ足よりにかかっている</p>	<p>⑥攻撃的な威嚇姿勢</p>  <p>逆毛たっている</p> <p>尾はたっていて力が入っている</p> <p>耳は前方に傾いている</p> <p>鼻先にしわをよせている</p> <p>口角を前方に向けている</p> <p>つま先立ち、前のめりになっている</p> <p>体重は、前足にかかっている</p>







攻撃の増大 ↓

恐怖の増大 →

猫と尻尾の関係図

 I am afraid 怖いよ	 I am happy to see you 会えてうれしー	 I am irritated イライラするぜ
 I am friendly みんな友達よ	 I am interested なになにそれなにー？	 I am crazy about you お、おまえっ (大好き！)
 I am in an amorous mood うふ、うふ	 I am concerned 集中モード	 I am angry 怒ったわ！

積極的な攻撃 →

防御的な攻撃 ↓

4 学習理論

- (1) []…動物が刺激に繰り返さらされることで、動物がその刺激になれ、反応が小さくなる
⇒ドライヤーを嫌がる犬に当て続けると慣れる
- ・ []: 刺激を与え続けて慣れさせる方法
 - ・ []: 刺激を少しずつ与えて、なれたら次の大きさの刺激を与えて最終的には反応を小さくしていくこと
- (2) []…強い刺激に暴露された結果、逆に刺激に過敏な反応を示すようになること
- (3) 条件付け
- ① []…動物に何らかの反応を引き起こさなかった刺激(中性刺激)が特定の反応を引き起こす刺激と同時に与えられると、中性刺激だけで特定の反応が起こる
例) パブロフの犬、梅干しを見ると唾液が出る
⇒古典的条件付けにおける刺激般化: 類似するほかの刺激に対しても同様の反応が出る
⇒古典的条件付けにおける消去と自発的回復: 刺激に対して反応を示していた動物に特定の反応を引き起こす刺激が与えられない状態が長く続くと反応が弱くなるこれを[]という。こうなっても、時間が経てば、また同じ反応をするようになることがある。これを[]という。
- ② []…刺激を与えたり取り去ったりして反応の頻度を増減させることができる
- (4) 学習に影響を与える因子…

5. 問題行動

・ []行動

・ []行動

※正常行動も異常行動も含まれる

★問題行動に関連する因子

① 生得的因子(生まれながらの原因)

・ []疾患や障害, **犬種**による遺伝的行動

・ 中枢神経障害による[]や過度の[]気質

② 習得的因子(経験や学習が原因)

・ []:母親が子に与える行動の質と量が子の心理的発達に大きな影響を及ぼす

・ []期における環境や経験 **※3-12週齢の時期**をいう

・ 飼い主との相性 **※正しい行動を引き出して褒めることが大切!**

・ []:2つ以上の動機が同時に存在する場合, いずれにも決めかねている状態

・ []:1つの動機による行動出現が抑えられている状態

例)空腹時に窓越しにえさを見せられる など



・ []:葛藤や欲求不満を感じたとき, **その場の状況とはほとんど関係ない行動が出現する**

⇒ **咬む, 掻く, 舐める**など … これらの行動は覚醒を沈める効果がある(興奮が終息する)

・ []:葛藤や欲求不満の原因となる対象とは**異なる対象に向ける行動**

⇒ 順位の高い個体から攻撃を受けた時, 自分より低い順位の個体に攻撃する

・ []:行動が一定し, **規則的に繰り返される行動で, 目的・機能がはっきりしない行動**

⇒ 動物園の檻のなかでライオンが行ったり来たりする(**長期の葛藤・欲求不満に由来**)

○問題行動の種類

・ []:犬自身の意思を通そうとする際に妨害しているとみられた対象に攻撃を仕掛けてくることがある

※多くの場合, **根底には[]がある**。また, 皮膚炎などの[]を伴う疾患に関連することもある

※家庭内で一緒に飼われている動物に対して序列の認識が不足した際に見られる**同種間攻撃行動**も見られる

※不適切な仕様管理(ストレスの多い飼育環境), 社会化の不足・欠如, 飼い主との好ましくない関係

⇒恐怖性問題行動について

①[]:飼い主不在時に見られる不安兆候や嘔吐・下痢などの生理学的症状

②[]:常にリラックスできない, ちょっとしたことに動揺する状態

③[]:音や花火, 雷雨などに対して問題行動をおこす

・ 不適切なマーキング

⇒スプレー行動は[]に多く, **縄張りに関する不安や社会的な不安が関係する**(引っ越したなど)

5. 問題行動

★重要★ 高齢性認知機能不全症

- ・ 詳しい原因は分かっていない
- ・ 認知機能不全になると、以下の症状が現れることがある(DISHAの徴候という)
 - ① [D]:慣れた環境で混乱する
 - ② [I]:遊びや関心の減少
 - ③ [S]:昼夜逆転や、夜間徘徊
 - ④ [H]:以前できていたことができなくなる
 - ⑤ [A]:不活化あるいは目的のない過活動

6. 行動治療

・ 行動治療の目的

・ 具体的には…

- ① []の教育
- ② []の修正
 - 問題行動の原因の特定とその除去
 - 適切な環境作りをし、問題行動を起こす機会を減少させる
- ③ []の修正
 - **手術(避妊や去勢など)**:スプレー行動の改善, 鳴き声などの改善
 - 行動修正
 - ⇒飼い主と動物の関係性の再構築や攻撃行動回避
 - **薬物治療 ※行動修正法の[]に使われる**
 - ⇒強い不安や恐怖が原因になっている行動の修正をやすくする
 - []や[]などの脳内神経伝達物質を調節するものが多い
 - 例)三環系抗うつ薬
 - []:犬の分離不安の治療に使用される⇒脳におけるセロトニンの再取り込みを阻害する